

朝来市

119だより

ASAGO
FIRE STATION

2012
NO.

87



中川幼稚園消防署見学

災害状況



1月23日現在

- ・火災……………0件
- ・救急……………93件
- ・救助……………1件

主な内容

市内全戸調査から

住宅用火災警報器の設置状況 — 2・3

- ◆一日消防官
特殊災害対応訓練 ————— 4
- ◆訓練始め
和田山・山東消防合同訓練 ————— 5
- ◆消防写真館・消防白書 ————— 6・7
- ◆お知らせ ————— 8

—市内全戸調査から—

住宅用火災警報器の設置状況



消防教室での住宅防火講話（山東町和賀区）

消防法及び朝来市火災予防条例に基づき、全ての住宅に住宅用火災警報器（以下、「住警器」という）の設置が義務付けられ、5年8カ月が経過しました。

消防本部では、住警器に関する市民の皆さんの意識と設置状況を探るため毎年調査を実施していますが、今年は市内全戸（平成23年6月末1万2262世帯中一部対象外あり）に訪問し聞き取り調査を実施したところ、8842戸から回答がありました。

既存住宅に対しての設置猶予期間も終了している現在、朝来市内の設置状況はどのようになっているのでしょうか。

住警器を設置しているか

住警器は、消防法や火災予防条例に基づき平成18年6月1日から新築住宅への設置が義務付けられました。また、既存住宅は5年の猶予期間が設けられていましたが、その猶予期間も昨年の5月31日で終了しています。

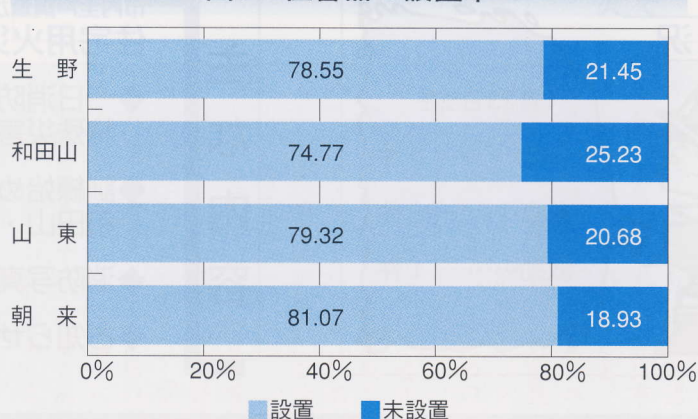
消防本部では毎年住警器に関するアンケート調査を実施してきましたが、猶予期間が終了した現在、どれだけの家庭に住警器が設置されているか幅広く調査する必要があるとして、対象を市内全戸に広げました。

ただし、既に設置が確認されている市営住宅や県営住宅、また、戸建住宅であっても複数回訪問したが家人と出会えなかったような住宅は除いています。

各区の区長さんや消防団の方々のご協力により、一世帯一世帯訪問して聞き取り調査を実施していただいた結果、8842世帯の回答が得られ、うち6821世帯（77・14％）で設置されていました。平成22年の調査結果59％を大きく上回る設置率となっています。

旧町別では朝来が1558世帯中1263世帯（81・07％）、山東が1528世帯中1212世帯（79・32％）、生野が1114世帯中875世帯（78・55％）、和田山が4642世帯中3471世帯（74・77

図1 住警器の設置率



％）、といった設置状況でした。（図1参照）

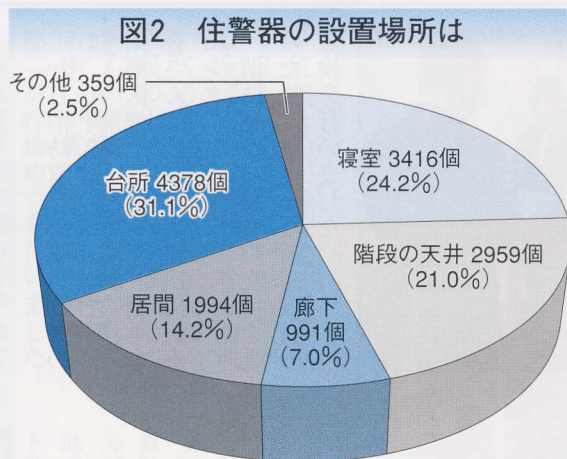
また、設置世帯における平均設置個数は、全体で2・39個でした。

どこに設置しているか

設置する場所について義務付けられているのは寝室と、避難階（1階）以外に寝室がある場合は階段の天井ですが実態はどうでしょう。既に設置済と回答された方の状況をみてみました。

設置総数14097個のうち寝室が3416個、階段の天井が295

9個、廊下が991個、居間が1994個、台所が4378個、その他が359個といった設置状況でした。設置が義務付けられてはいない台所ですが、やはり火を多く使用する場所であることから、一番多く設置されていました。(図2参照)

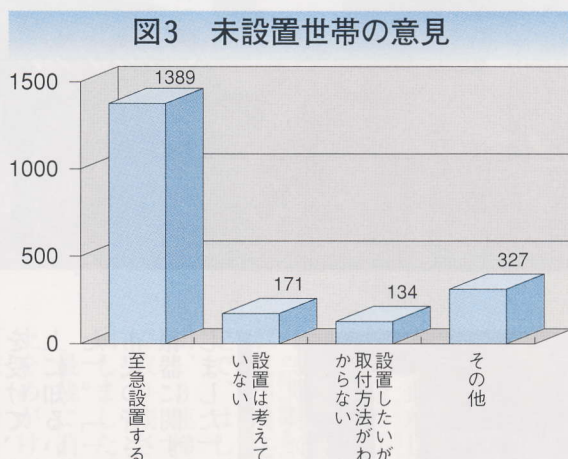


未設置世帯の設置意欲は

一方、未設置と回答された2021(22・86%)の世帯に対して今後の設置意欲をお尋ねしたところ、1389(68・73%)の世帯から「至急設置します」という答えが返ってきました。

しかし、「設置は考えていません」という世帯が171(8・46%)、また、「設置したいが取り付

け方法がわからない」といわれる世帯が134(6・63%)、「その他」が327世帯(16・18%)ありました。(図3参照)



その他の意見や要望は

また、アンケート調査の中で寄せられた、市民の皆さんのその他の意見や要望をいくつかご紹介したいと思います。

「火災警報器を個人で購入する時に補助があればよい」、「設置するかどうか、まだ思案中である」、「付けないと絶対だめなのか。罰則はあるのか」、「1個しかないのも、もしよければ幹旋をお願いしたい」、「電池が切れるのが早い。形やサイズがわからずどこで買えばよいの

か」といったような意見がありました。住警器に対して十分理解していただくには、もう少し広報が必要なのようです。

消防本部では今日までに、早期の全戸設置に向け各区を巡回し説明会を実施してきましたが、まだ「取り付け方法がわからない」という方もおられることから、今後も引き続き、消防団等の協力を得ながら各世帯への設置を進めていきたいと思っています。

また、今回の調査で「設置は考えていない」と回答された設置消極層(無関心・拒否)への粘り強い働き掛け及び、設置効果の積極的な情報発信を合わせて実施していかなければならないと考えています。

朝来市内の火災発生状況と

住警器奏功事例

毎年、全国では10000人を超えている人が住宅火災により亡くなっています。(平成22年中は1022人・放火自殺者等を除く)

平成23年中の朝来市内の火災発生状況をみると総数で16件発生しており、そのうち建物火災は7件でした。前年には建物(住宅)火災で死者が1人発生しましたが、23年中は負傷者1人とどまりました。

その中で7月に発生した住宅火災では、隣家に仕事で訪れていた方が、玄関から出ている煙と家の中から聞

こえる住警器の音で火事に気づき、家人の安否確認や通報及び消火等の活動を一人でこなし、大事に至ることなく、被害を最小限に食い止めた事例がありました。

また、共同住宅の家人がおかずの入った鍋をガステーブルにかけたまま出掛けてしまったため住警器が鳴り、上階の住人が気づき119番通報してきた例もありました。

あるいは、高齢者宅に設置した緊急通報システムに連動した住警器が作動したため、ガス会社を経由し119番通報が入ってきた例などがありました。このように朝来市内でも住警器を設置していたため大事に至らずに済んだ例が何件も報告されています。

火災の発生が昼間や就寝までの時間帯であれば、煙や臭い、物音などにより気づき、初期消火や避難もできます。しかし深夜となると、気づいた時には煙や炎で逃げ出すことができなくなり、犠牲となられるケースが起きるものです。

そうならないためにも、住警器を設置されていないお宅は一日でも早い設置をお願いします。

住警器について

わからないことがあれば消防本部予防課へお尋ねください。



一日消防官

秋の火災予防運動

昨年11月9日から15日までの一週間、全国一斉に秋の火災予防運動が展開されました。

消防本部では、消防合同訓練や旅館・ホテルの防火研修会などさまざまな行事を行いました。

火災予防運動期間中の10日には、市内医療機関の女性看護師2人に「一日消防官」をお願いし、住宅用火災警報器設置の推進を始め、火災予防を呼び掛けていただきました。

一日消防官をお願いしたのは、丸岡桂子さん（公立朝来梁瀬医療センター）、西本春香さん（公立朝来和田山医療センター）です。

消防長から辞令の交付を受けた後、整列した消防職員の点検を行いました。



また、市内の大型商業施設に出向き、多くの来店者に対しチラシや広報物品を手渡ししながら、住宅用火災警報器設置の推進と家庭内での火災予防について呼び掛けていただきました。

短時間ではありましたが、



来店者からは「もう取り付けていますよ」。「取り付け場所はず寝室や子供部屋でよかったですね」などといった、多くの声を聞くことができました。また「取り付けないといけないとは知りませんでした。早速取り付けます」と言われる方もあり、住宅用火災警報器設置促進の成果を肌で感じる事ができました。

終了後、2人に感想を伺うと、「消防署は救急以外はよく知りませんでした。今回、通信指令室や出動体制の説明を受けて、消防署を今まで以上に知るいい機会となりました」。「一日消防官を通して、市民の皆さんの住宅用火災警報器に関する関心の高さを感じました」と話されました。

特殊(BC)災害対応訓練

平成23年11月15日、朝来市消防本部に於いて、朝来市消防本部（6台30名）と豊岡市消防本部（1台5名）が合同で、有毒ガス発生を想定した特殊災害対応訓練を実施しました。

この訓練は、有毒ガス等の発生に対する朝来市消防本部作成の「消防活動マニュアル」に基づき、災害発生時の活動に対して、指揮隊・救助隊・消防隊・救急隊が必要な知識と迅速的確な判断及び各隊の連携技術の習得を目的として実施しました。

「付近の建物から異臭がする」との119番通報により訓練を開始。

消防本部は、直ちに出動部隊に特殊防護服を着装させ活動に当たらせると共に、豊岡市消防本部に除染隊の出動要請を行いました。

現場に到着した部隊は付近一帯の有毒ガスの測定を行い、危険箇所を区域分けを実施し、進入隊員の統制を行いました。続いて、陽圧式化学防護服を着装した隊員が建物内へ進入、



負傷者3名を屋外へ救出し、待機している防護服着装隊員に引継ぎました。その後、豊岡市消防本部の除染部隊に引継ぎ、身体に付着した有害物質は温水を使用して洗い流し、救急隊に引継ぎました。

訓練終了後は、訓練の検証及び意見交換会を実施し、特殊災害対応要領、各部隊との連携や活動要領について活発な意見交換を行いました。

消防本部では訓練を通じ、特殊災害に対する各隊の連携技術を高め、迅速・的確な活動を目指します。

12 消防訓練始め



1月6日、新たな年のスタートにあたり、朝来市民が安全で安心して暮らせる地域づくりに邁進するとともに、職員の士気の高揚を図るため、多くの来賓や保育園児が見守る中、平成24年朝来市消防本部「訓練始め」を行いました。

多次市長の年頭の辞、来賓の安福県議会議員の祝辞に続き、山田消防長が訓示を行い、安全で安心して暮らせる朝来市の実現と市民から信頼される消防を職員一丸となって取り組むことを誓いました。

引き続きの訓練では、テーマを「愛・勇気・力」「龍の如く より速く・より強く・より高く」とし、スピーディーで力ある訓練を披露しました。



最初に、地震により倒壊したビルに要救助者がいるという想定で、兵庫県消防防災航空隊による救出訓練が行われ、救助隊員による、ラペリング降下の披露に引き続き、要救助者をヘリに吊上げるホイスト救出が行われました。



次に救急訓練では、市民参加型の救急訓練を実施し、但馬信用金庫の山本裕樹さん、掃部理沙さん、但陽信用金庫の長濱隆行さん、小路正恵さんが店内で急に胸痛を訴え倒れたお客さんに、心肺蘇生法とAEDを使つての除細動を行い到着した救急隊に引き継ぐ救命のリレーを行いました。

救助訓練では、地震が発生し5階建てのビルに要救助者が取り残されているという想定で、はしご車を使用した救出、3連梯子を使用した方法で取り残された要救助者を救出しました。

最後に消防隊が訓練塔の屋上をめぐって9線一斉放水し、訓練を締めくくりました。

火災のない朝来市を願い！

山東町・和田山町で
早朝・夜間の合同消防訓練を実施



山東町早朝訓練



和田山町夜間訓練

秋の火災予防運動期間中の11月6日、山東町栗鹿「旧栗鹿小学校」周辺で、また9日には、和田山町枚田岡「朝来市枚田岡会館」周辺で、朝来市消防団と消防本部との合同消防訓練を実施しました。

山東支団の早朝訓練では、「旧栗鹿小学校職員室より出火し延焼拡大していると共に、校内に逃げ遅れがっている模様」との想定で訓練を開始、消防団、消防本部との連携も早く、今後の現場活動が大いに期待できる結果となりました。

また、和田山支団の夜間訓練では、「朝来市枚田岡会館付近の住宅から出火し、延焼拡大している」との想定で訓練を開始、地区住民による119番通報、また、消火栓を使用し、初期消火が行われ、地域住民と消防団、消防本部が一体となり、緊密な連携のもとに円滑かつ的確な初期消火活動及び消防活動が行えました。

両訓練共に、最後は火災のない朝来市を願い、一斉放水で訓練を締めくくりました。

消防

写真館



社会見学(左:10月24日 梁瀬小学校、右:10月17日 山口小学校)

市内の小学校4年生が消防署へ社会見学に訪れました。通信指令室で119番の受信から出動するまでの状況や消防車両積載資器材の説明を受けたり、煙体験や救助袋による4階からの避難体験をして消防の仕事について勉強しました。



消防訓練(12月21日 ヒラキ<株>)

避難訓練終了後、消火器と消火栓の取扱い訓練を実施。年末を迎え、いつにも増し気を引きしめた中での訓練となりました。



消防訓練(11月25日 近畿グリコ乳業)

工場内での火災を想定した消防訓練が実施されました。初期消火や避難・誘導訓練を行った後、屋外で消火器や消火栓を使い消火訓練を実施しました。また、応急手当の実施要領や、担架搬送要領についての説明に、従業員のみなさんが熱心に耳を傾けておられました。



消防白書

平成23年
1月 12月

火災

◆火災件数は減少
損害額は増加

出火件数は16件、損害額は593万1千6百円で、前年と比較すると、件数は2件の減少、損害額は104万9千8百円増加しています。

地域別では、和田山8件、山東3件、朝来3件、生野2件の発生となっています。

種別 地域別	総数	建物	林野	車両	その他	損害額
総 数	16 (18)	7	3	2	4	59,316
生 野	2 (3)	2	-	-	-	1,520
和田山	8 (8)	3	1	1	3	55,837
山 東	3 (2)	1	1	1	-	1,959
朝 来	3 (5)	1	1	-	1	0

() 内は前年件数

単位: 千円

出火原因は、「たばこ」、「焼却」「放火」が各3件、「電気関係」「不明・調査中」が各2

救急

◆出場件数・搬送人員
過去最多

件、他の原因は「こんろ」「火遊び」「ライター」が各1件となっています。

種別 地域別	総数	急病	交通事故	一般負傷	その他
総 数	1,457 (1,283)	846	167	238	206
生 野	193 (193)	124	23	31	15
和田山	759 (647)	419	86	116	138
山 東	222 (195)	122	32	47	21
朝 来	280 (246)	181	24	44	31
管轄外	3 (2)	-	2	-	1

() 内は前年件数

出場件数は1457件、搬送人員は1346人で、過去最多となりました。前年と比較すると174件、148人増加しています。

地域別では、和田山が759件と半数を占め、次いで朝来280件、山東222件、生野193件となっています。事故種別を見ると、急病が



年末特別査察(12月12日他 市内15店舗)

年末を控え、店舗の特別査察を実施しました。避難経路の状況や消防用設備等の確認を行い、不備な箇所は防火管理者に改善を指導しました。



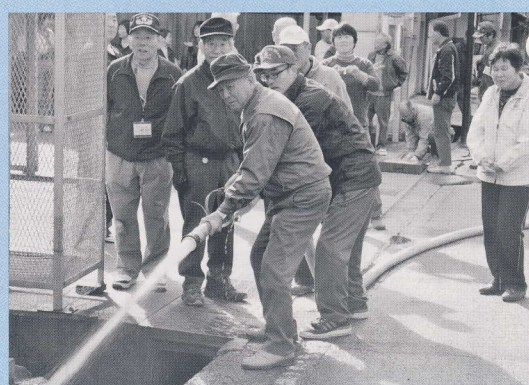
旅館・ホテル防火研修会(11月15日)

市内の宿泊施設関係者を対象とした防火研修会を行いました。火災予防の研修後、消火器や屋内消火栓を使用した初期消火訓練を実施しました。



消防合同訓練(12月16日 朝来和田山医療センター)

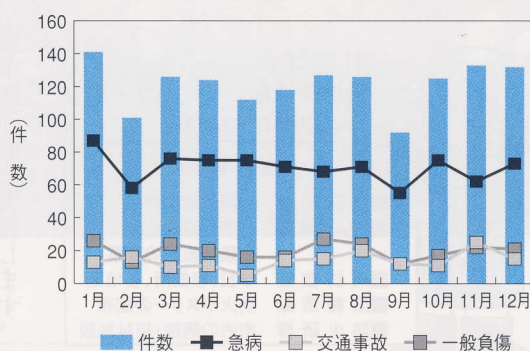
病室から火災が発生したとの想定で、消防訓練を実施しました。職員らによる迅速な消火、通報及び避難誘導が行われるなど、同センター職員一人ひとりの防災に対する意識の高さが表われた訓練となりました。



消防教室(12月4日/口銀谷6区)

会議中に火災が発生したとの想定で、地区をあげての消防訓練が行われました。消火栓を使っての放水を体験し、初期消火の大切さを学びました。

◆**ドクターヘリで129人を搬送**
ドクターヘリへの出動件数は175件あり、129人の重症患者を医療機関に搬送しています。
また、ドクターカーは48件



◆**1月に最多出場**
出場状況を月別で見ると1月が最も多い141件でした。また、搬送人員1346人のうち、管内の医療機関への収容率は21.2%(286人)となっています。

846件と約6割を占め、次いで一般負傷238件、交通事故167件などが続いています。

◆**16人を救出**
出動件数は26件で、その内救助活動を行ったのは15件で16人を救出しました。前年と比較すると、出動件数は12件、活動件数は6件減少しています。
事故種別では、交通事故20件、機械による事故3件、山岳救助事故が2件となっています。

救助

区分 種別	出動 件数	ドクターヘリ 搬 送 手 段			ドクターカー 出動 件数
		ヘリ	救急車	不搬送	
総 数	175	129	40	6	48
急 病	115	73	37	5	37
交通事故	31	30	1	—	5
一般負傷	20	18	2	—	4
そ の 他	9	8	—	1	2

の出動がありました。なお、昨年12月から運行時間の延長並びにヘリとの同時運行が可能となっています。

お知らせ

◆ドクターカー運行拡大

12月1日からドクターカーの運行が拡大されました。

これまではドクターヘリが悪天候で飛ばない場合などの日中に限られていた運行がドクターヘリとの併用となり、運行時間も午前6時から午後11時までに拡大されました。

また、朝来市内でドクターヘリと救急隊が傷病者を引き継ぐランデブーポイントも新たに4カ所を追加し40カ所となりました。

◆訓練始め参加者紹介

訓練始めの救急訓練に参加くださったのは写真左から但馬信用金庫の山本裕樹さんと掃部理沙さん。但陽信用金庫



の小路正恵さんと長濱隆行さんの4人です。
訓練終了後「実際に店内でお客様が倒れた時のために従業員一人ひとりの役割を決めておき、しつかり動けるように練習を重ねたい」と話されていました。

◆消防設備士

試験日：8月上旬

11月下旬

受付期間：6月下旬

9月中旬

◆平成24年度 資格試験案内(予定)

	試験日	受付期間	試験種別
第1回	6月中旬	4月下旬	甲、乙、丙
第2回	10月下旬	8月下旬	甲、乙、丙
第3回	平成25年 2月上旬	平成24年 12月下旬	甲、乙、丙

願書配付及び受付場所

朝来市消防本部・生野出張所

★試験日など一部変更される場合があります。

詳しくは119だより、CATVなどでお知らせします。

◆山火事防止運動

消防署並びに消防団では4月の一カ月間、山火事防止運動を展開します。

◆春の火災予防運動

3月1日から3月7日までの7日間、全国一斉に春の火災予防運動を実施します。

『消したはず
決めつけないで もう一度』
3月1日～3月7日

主な行事予定

- 消防訓練 合同消防訓練
- 立入検査等 病院・福祉施設
危険物施設の査察
- 消防教室 学校、事業所、各地区
- 広報活動 防火ポスターの配布
- 防火研修 市内の病院・福祉施設

編集手帳

昨年の秋、但馬地方で消火栓ボックスから消火用ホースの「筒先」が盗まれる被害が相次ぎました。市内でも、昨年確認された被害は旧朝来町で計11本でした。また、新聞によると、盗まれた「筒先」は旧型の真ちゅう製で転売目的の犯行の可能性が高いとのこと。消火栓ボックスの「筒先」は消火するための道具で普段必要ありませんが、火災時になくってはならない道具です。世の中それほど不景気なのでしょうか。それとも、日本人としての倫理観が希薄になったのでしょうか？

火災と言えば、この冬も節電で石油ストーブの売り上げが好調とのことから、石油ストーブの火災が懸念されます。但馬の冬を乗り切るにはなくてはならない暖房器具ですが、使用方法を誤ると火災のおそれがあります。安全に使用しましょう。(3)

ヒデちゃん



119だより

119だより第87号

2012年2月1日発行(年3回発行)

■発行・編集
朝来市消防本部予防課
兵庫県朝来市

和田山町枚田436-1

■TEL 079-672-0119

■FAX 079-672-5046

■URL <http://www.city.asago.hyogo.jp/fire/>